

通常の学級における発達障がい等支援事業 第1回地区別事業報告会(中河内地区)

平成25年9月6日15:30~17:00 (中河内府民センター)
当日参加者55人(幼稚園・こども園15 小学校23 中学校8 その他9)

1. 実践報告

<八尾市立 大正小学校>全ての子どもに、よりわかりやすい授業

・アドバイザースタッフから、「わかる(わかる授業のステップ)」とはどういうことなのかを示していただいた。そして学習における自己肯定感を高めるために、子どもが自分の得意な学び方に気づくには、どのような支援をすればよいか指導助言いただいた。サポートチームからは、アセスメントシートを活用した「わかる」授業づくりについて、研修・講義を受けた。これらの指導助言を生かし、すべての子どもにとってわかりやすい授業づくりをめざし、取り組んでいる。



<八尾市立大正幼稚園> 子ども一人ひとりの実態把握

アドバイザースタッフに子どもたちの生活や遊びの様子等を観察していただき、幼稚園では発達段階の差も大きく、一人ひとりの子どもの実態をしっかりと把握することが大事であると指導助言をいただいた。全教員で子どもについての情報交換を行い共通認識を図ることが大切であると再認識し、取り組んでいる。



2. 指導助言

(指導助言のポイント)

◆自己肯定感を高める

自己肯定感が低下すると二次的な諸問題(反社会的・非社会的行動等)へ展開する可能性がある。失敗を認め合える、違いを認め合える、安心して学び合える学級・集団づくりが大切。

◆「わかる」保育・授業づくりの工夫

子どもが自分の得意な学び方に気づく指導・支援を行い、「わかった!」「できた!」と実感させるようにする。できたときには即座にほめることが大切。

◆子ども達の願いを引き出す工夫

子どもたちの共通した願いは、【ほめられたい、役に立ちたい、自分の意思や気持ちを伝えたい(関わりたい)、学びたい、新しいことに挑戦したい等】であり、これらを引き出す指導・支援が大切。



<指導助言者>
大阪大谷大学 小田 浩伸 先生

通常の学級における発達障がい等支援事業 第2回地区別事業報告会(中河内地区)

平成26年1月30日15:30~17:00 (中河内府民センター)

当日参加者47人(幼稚園・こども園11 小学校15 中学校11 その他10)

1. 実践報告

<八尾市立大正小学校> 学校全体での共通のルール

- ・実践 構造化⇒・チャイム着席(チャイム行動)
 - ・1日の流れを提示(ホワイトボード)
- 視覚化⇒・めあて・まとめの明確化
 - ・板書の工夫
 - ・掲示の工夫
- 協働化⇒・ペア学習・グループ学習の手法研究
- ・指導助言 小田先生(アドバイザースタッフ)から
 - 「わかる」授業のステージ
 - 授業におけるユニバーサルデザインを考える視点
 - 自己肯定感を高める「わかる」授業づくり
- ・その後の改善 ⇒共通ルールの確立



<八尾市立大正幼稚園> 意欲的にのびのび遊ぶこどもをめざして

- ・実践 ○年少2クラスの研究保育
 - ・一人ひとりの実態に応じた保育
- 大正小学校の研修会に参加
 - ・具体的内容や方法を考える
- 年長クラスの研究保育
 - ・グループ毎で、友だちと考えを出し合い遊びを作り出す
- ・指導助言 小田先生(アドバイザースタッフ)から
 - 1日の流れを明確に示す ○視覚にうたえる教材
 - 集団におけるルールづくり ○自己肯定感を高める
- ・その後の改善 ⇒協働化につなげる



2. 指導助言

(指導助言のポイント)

◆ インクルーシブ教育システムの構築

- 集団指導では対応できない児童生徒には、個別対応を行うことで、問題解決を図ろうとする。⇒個別対応のイメージ
- すべての児童生徒が参加できるように、集団指導のあり方を見直す。その上で、まだ問題を感じている児童生徒には個別の配慮を行う。

⇒インクルーシブ教育システム構築のイメージ

◆ 授業・保育改善のポイント

- 多様な学び方の保障
- 子どもの主体的な活動の充実

◆ 記憶のメカニズム ○意味記憶 ○エピソード記憶



指導助言者
大阪府教育委員会サポートチーム
支援教育課 支援学級グループ
矢木 克典 首席指導主事

通常の学級における発達障がい等支援事業 第3回地区別事業報告会(中河内地区)

平成26年11月18日15:10~17:00 (八尾市立大正小学校)

当日参加者106人(幼稚園・こども園27 小学校49 中学校17 その他13)

1. 研究授業・研究保育・実践報告

<八尾市立大正小学校> チャレンジし続ける子どもたち 大正スイッチオン!

◆研究授業 テーマ:すべての子どもにわかりやすい授業づくり

○全クラス公開授業

- ・「わかりやすい授業」をめざすうえで、教職員が共通認識する8点の点検項目を策定し活用した授業
- ・構造化:授業のめあてを明確にする、パターン化することなど
- ・視覚化:画像や映像、具体物、教具の工夫など
- ・協働化:ペア学習やグループ学習で学びを共有し合うことなど



◆実践報告 各研究部の取組みについて

- 健康教育部:『基礎体力づくり』…健やかな体と心の育成
- 生活指導部:『安心できる環境づくり』…統一された環境整備
- 人権教育部:『集団づくり』…まちがいも大切にされる仲間づくり
- 授業研究部:『授業づくり』…すべての子どもがわかる授業づくり

<八尾市立大正幼稚園> 主体的・意欲的にのびのび遊ぶ 子どもをめざして

◆研究保育 テーマ:友だちとごっこ遊びを楽しもう

○年少クラス公開保育:「どんぐり村のお店屋さんごっこ」

○年長クラス公開保育:「38めいろごっこ」

- ・すべての子どもにわかりやすい保育づくり

◆実践報告 主体的・意欲的にのびのび遊べる子ども

○保育づくりのポイントを考える視点

- ・構造化:時間のめあてや活動の場所、流れ、方法を知らせる。
- ・協働化:共通の目的に向かって友だちや少人数のグループ、学級において相談したり、協力したりして遊ぶ楽しさを味わわせる。
- ・視覚化:視覚的に示す教材や教具を多用して、イメージを共有させる。

○保育づくりのポイント:全体支援、個別支援



2. 指導助言

(指導助言のポイント)

◆自己肯定感を高める集団づくり・授業づくりの工夫

○安心できる集団づくり~ナチュラルサポートをめざして~

- ・集団づくりの基本となるソーシャルスキル→あいさつ、あやまる、お礼、教えてください等
- ・安心できる集団づくりをめざしたクラス全体への支援
→肯定的な指示や指摘のバリエーションを増やすなど

○自己肯定感を高める「わかる」授業づくり

- ・子どもが自分の得意な学び方に気づく指導・支援
- ・授業(保育)におけるナチュラルサポートのポイント